

国際社会学部—イタリア（西南ヨーロッパ地域）

海に踏み出した一歩、イタリア

イタリアという地域の最大の特徴は、海に向かって開かれているということです。「長靴」にも似た半島を囲んで広がる地中海は、紅海やインド洋、大西洋ともつながって、イタリア半島に人や文化を運び、イタリア半島から人々を旅立たせました。イタリア料理ひとつをとっても、オリーブオイルやワインはイオニア海を通じて古代ギリシャから、トマトは大西洋を通じてアメリカ大陸から来ました。イタリア半島で隆盛を極めた知的・芸術的覚醒であるルネサンスは、ともに地中海を囲むイスラーム世界からの影響なくしては生まれませんでした。今日のイタリアの豊穡さをもたらしたのは、半島の外の世界とのつながりに他なりません。

海は同時に、苦難や暴力の場所ともなってきました。19世紀末から20世紀にかけて、イタリアからは膨大な数の人々が生き延びるために移民となって海を渡りました。今日、ヨーロッパを目指して危険な旅をする移民たちにとって、厳重に警戒された地中海は死の危険と隣り合わせです。「古代ローマ帝国」を再現するという野望とともにイタリアがアフリカ大陸に行った侵略は、無数の死者と人種主義的暴力をもたらしました。

「国境」の内にとどまらないイタリアの経験は、広く人類の正義や幸福を見すえた思想や文化を生み出しもしました。イタリアという地域を知るためには、半島を、それを取り囲む世界ごと鳥の目で見、そこで起こったできごとや生きた人々に虫の目で寄り添って、その関係を考えなければならないのです。



Italy in Hammond's New World Atlas, 1948.

人と文化

■アントニオ・グラムシ（1891～1937）

政治と社会における文化の役割を重視した、先駆的なマルクス主義思想家。ファシスト政権により長期にわたって投獄されている間に執筆した『獄中ノート』は、労働者や農民など貧しく力のない人々の声に耳を傾ける必要を訴えて、死後、現代思想に大きな影響を与えた。



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Gramsci_\(cropped\).png](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Gramsci_(cropped).png)
http://eserver.org/, Public domain, via Wikimedia Commons

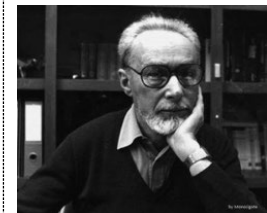
■ヴェントターネ宣言（1941年）

ファシスト政権下で反体制活動によって流刑とされていた政治家アルティエーロ・スピネッリらによって起草されたヨーロッパ統合構想。今日のEUの思想的源流のひとつとなった。



■プリモ・レーヴィ（1919～1987）

トリノ生まれのユダヤ系イタリア人で、アウシュヴィッツに強制連行されたものの、生還した（イタリアから強制連行されたユダヤ人で帰還できたのは一割程度）。作家となり、アウシュヴィッツでの極限的な経験の中で絶望の淵から問うた『これが人間か』を発表。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Primo_Levi_in_Library_1983.jpg
Monozigote, CC BY-SA 4.0 <<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/>>, via Wikimedia Commons

■スローフード運動（1989年創設）

ローカルな食文化と食の伝統を守ることを目的として創設されたグローバルな社会運動。すべての人が、食べる人にも、食べ物を育てる人にも、地球にも良い食べ物にアクセスすることのできる世界を目指す。



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Slow_Food_logo,_2008_\(cropped\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Slow_Food_logo,_2008_(cropped).jpg)
Jan-Tore Egge, CC BY-SA 2.0 <<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.0/>>, via Wikimedia Commons

■エマージェンシー（1994年創設）

1994年にミラノで医師ジーノ・ストラダラによって創設された、戦争、貧困、地雷被害者などに医療的ケアを提供する人道支援NGO。ルワンダ、イラク、アフガニスタン、スーダンなどで活動する他、イタリア国内でも移民や困窮者を対象として医療活動を行なっている。

